

令和5年度 学校評価

伊予市立港南中学校

校長久保雄

令和5年度の教育活動への4段階評価を7月と12月に、生徒・保護者・教職員三者で実施しました。その結果を考慮し、今後の教育活動の改善と充実のための取組を立案し、学校関係者評価委員の皆様から御意見をいただき、次のように取りまとめました。この学校評価を基に、令和6年度の教育活動をより一層、改善・充実させてまいります。

※ 判定基準 A : 平均3.2以上 B : 平均2.6以上 C : 平均2.6未満
 ※ 評価判定 上段は、7月調査結果 下段は、12月の調査結果

重点目標	具体的な取組内容	総合判定	評価			考察と今後の取組
			判定	対象	平均	
協働的な学習活動の推進	① ICT機器を積極的に利活用した「学ぶ喜び・学んだ実感」のある授業の工夫	2.9 B ↓ 3.0 B	3.0 B ↓ 3.1 B	生徒 保護者 教員	3.1 3.1 3.0 3.2 3.1 3.0 3.0 3.1 2.9	<p>< 考察 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ①～③ともに、良好な評価結果である。これは、毎時間、問い合わせ型の学習課題の提示し、対話する場面を設定したことや、ワークシートや評価カード等を工夫し、振り返りを授業の終末に位置付けたことなどにより、基礎・基本を確実に身に付けるための分かりやすい授業が行われていると生徒や保護者ともに感じたからだと考える。 <p>△ ④「家庭学習に生徒自らが主体的に取り組める」については、生徒が他より高めの評価結果となっている。これは、学習が進むにつれ、学習内容が難しくなっているが、生徒に「何を」「どのように」学習すればよいのかを身に付けさせられてきた成果と考える。しかし、保護者や教員の評価は高くないため、より一層、原因を分析し、解決していくための手立てを講じる必要がある。</p>
	② 基礎・基本を活用して考え方、表現する場(伝え合い・分かり合う場)を設定し、生徒の力を引き出す工夫		3.0 B ↓ 3.0 B	生徒 保護者 教員	3.0 3.0 3.0 3.0 3.1 2.9	<p>< 今後の取組 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も、学習課題を通して、生徒が授業内でその問い合わせについて思考し、授業の終末の振り返りで、生徒一人一人が問い合わせに対する自分なりの解決を得られるよう取り組んでいく。 単元ごとに、目標を示し、その単元で、何を、どのように学び、何ができるようになればよいかについての学習の見通しを生徒と共有して学習を進める。 家庭学習に主体的に取り組ませるために、教育相談等の中で学習方法や苦手教科のことなどを把握し、個別に指導していく。 学ぶ意欲を高める必要がある。そのためにICT機器(タブレット)を上手く利用し、指導を工夫する。 今後、全国学テ・県学テの結果を基に、生徒の学習への手立てや学力の定着等の支援を行う。
	③ 振り返りを行い、特支教の視点による一人一人に配慮した授業展開の工夫		2.9 B ↓ 3.2 A	生徒 保護者 教員	3.1 3.1 2.8 3.3 3.1 3.2	
	④ 家庭学習に生徒自らが主体的に取り組める手立ての工夫		2.7 B ↓ 2.9 B	生徒 保護者 教員	2.7 2.6 2.9 3.0 2.7 2.9	<p>学校関係者評価委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的に良好な結果が出ていることは、大変素晴らしいことである。先生方が真剣に授業改善に取り組んだ成果が出ている。 全般的な傾向とともに、否定的な回答の割合にも着目して今後の具体的な手立てを講じる必要がある。特に、④の家庭学習について、意識の二極化が進んでいる。生徒に応じた支援を継続的に行う必要がある。
主体的な生徒活動の推進	① 仲間と共にやり抜く場を設定し、やりがいや達成感を味わわせる工夫	3.0 B ↓ 3.2 A	3.1 B ↓ 3.3 A	生徒 保護者 教員	3.2 3.2 2.9 3.4 3.4 3.0	<p>< 考察 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ①・②は、高い評価結果である。特に「生徒同士が協力・協働することを通しての互いに高め合える集団づくり」への生徒の評価が高い。運動会や校内合唱コンクールなどを実施し、その実施をリーダー研修会や運動会運営委員会、校内合唱コンクール実行委員会により、生徒自らが主体的に企画・運営していく活動として工夫したことで、多くの生徒がやりがいや達成感、満足感を感じたからだと考える。③の教員の評価が低いことは、様々な手立てにより、より一層、高め合える集団づくりができると感じている表れと考える。 <p>△ ④は、良好な評価結果ではあるが、他の3項目に比べ、やや低い。部活動においては、少しずつ、十分な練習や大会参加ができるようになっているが、感染症等により制限約を受けたからではないかと推察する。</p>
	② 生徒理解・教育相談を効果的に行い、自己管理能力を高める指導の充実		3.1 B ↓ 3.3 A	生徒 保護者 教員	3.2 3.3 3.0 3.2 3.3 3.3	<p>< 今後の取組 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 来年度は、より一層、ブロックマッチを、工夫して実施する。 リーダーを中心活動を進めているが、日々の運営において、リーダーと教員が十分に計画を立て、次に生かす取組を工夫する。 部活動については、より一層、個々のスキルに応じた練習計画で取り組める工夫をして、活動の充実を図る。
	③ 生徒同士が協力・協働することを通しての互いに高め合える集団づくり		3.2 A ↓ 3.1 B	生徒 保護者 教員	3.3 3.2 3.1 3.4 3.0 2.9	<p>学校関係者評価委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事等の運営を通して、生徒の主体性が育っていることがよく分かる。
	④ 切磋琢磨する部活動等の充実による個性の伸長と自信を持たせる工夫		2.9 B ↓ 3.1 B	生徒 保護者 教員	3.0 2.9 2.9 3.3 2.6 2.6	<p>▲ 部活動の地域移行について、実証事業が行われている状況と今後の見通しについて教えてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の課題の中で、「工夫する」とあるが、行事等は、実施後に課題が明確になるため、すぐに来年度の改善策を明確にする必要がある。

重点目標	具体的な取組内容	総合判定	評価			考察と今後の取組	
			判定	対象	平均		
充実した道徳教育の推進	① 互いを認め合い、励まし合う仲間意識を高め、安心できる支持的風土のある集団づくり	3.0 B ↓ 3.2 A	3.2 A ↓ 3.3 A	生徒	3.3 3.5	< 考察 >	
				保護者	3.2 3.3	○ ①～③は、生徒・保護者では、大変高い評価結果である。安定した学級・学年経営の成果と考え、道徳通信の発行や家庭へ向けた情報発信を行うことにより、授業で発表した生徒の意見の他に、発表ができなかつた生徒の意見も掲載することで、④の他者理解についても、少しずつ深めることができ、生徒は家族と道徳的価値について話し合う機会も持ったから、生徒・保護者より大変高い評価になったと考える。	
				教員	3.1 3.1	○ 毎回の授業において、道徳的価値について自分自身の生活や考え方を振り返る時間を設け、教員が生徒の記述に対してコメントをし、やり取りを重ねたことにより、道徳的価値について、自分自身の生活や考え方と照らし合わせながら、真剣に考えることができたと考える。	
	② 有用感を感じ、人としての生き方について考え方、議論する道徳の時間の指導の工夫		2.9 B ↓ 3.3 A	生徒	3.3 3.5	< 今後の取組 >	
				保護者	3.1 3.2	・ 「考え方、議論する」道徳科の授業を充実させるためには、道徳科の時間に限らず、全教育活動で、対話的な活動を積み重ねる必要がある。	
				教員	2.4 3.1	・ 発言したり、記述したりするなど自分の考え方を表現するのが苦手な生徒もいる。道徳科に限らず、夢や目標を語り合う場を意図的に設定し、自己肯定感を高める。	
	③ 互いに夢や目標を語り合う場や機会の充実による自己肯定感の醸成		3.1 B ↓ 3.2 A	生徒	3.2 3.4	・ 引き続き、道徳主任と各学年の道徳担当者が中心となって、同僚性を生かし、相互の授業力向上につなげる。	
				保護者	3.3 3.3		
				教員	2.8 2.9		
	④ 自己評価・他者評価による自己認識・他者認識の力の向上		2.9 B ↓ 3.1 B	生徒	2.9 3.3		
				保護者	3.2 3.2		
				教員	2.8 2.9		
信頼・期待される学校づくりの推進	① 地域の「ひと・こと・もの」とかかわる学習による生きる力につながる教育活動の工夫	3.0 B ↓ 3.0 B	2.9 B ↓ 3.0 B	生徒	3.0 3.1	< 考察 >	
				保護者	3.0 3.0	△ ②・③は、良好な評価結果である。これは、学年主任による学年通信や、学級担任による学級通信や道徳通信で生徒の様子や考え方適切に発信され、学校ホームページを更新していることから、信頼や安心につながっていると考える。	
				教員	2.8 2.9	▲ ①、④は、他の項目に比べると低い。少しずつ活動に地域や小中連携を行ったが、例年に比べると地域や小学校との連携に関わる活動が少なかったからだと考える。	
	② HP、学校便り等を通じた情報発信		3.2 A ↓ 3.1 B	生徒	/	< 今後の取組 >	
				保護者	3.3 3.4	・ 今後も、学年や学級通信並びに学校通信、そして、学校ホームページや情報発信に充実させていく。	
				教員	3.1 2.9	・ 地域（公民館活動）等が、学校に求めるニーズが、更に多様化している。来年度から学校運営協議会（コミュニティスクール）編制されるが、生徒のために、適切な対応ができるよう取り組んでいく。	
	③ 開かれた学校を意識し、保護者の願いや思いへの適切な対応		3.0 B ↓ 3.2 A	生徒	/		
				保護者	3.3 3.4		
				教員	2.8 3.1		
	④ 小中連携の工夫と学校運営の見直しの実施		2.9 B ↓ 3.0 B	生徒	/		
				保護者	3.0 3.0		
				教員	2.8 2.9		

< 考察 >

- ①～③は、生徒・保護者では、大変高い評価結果である。安定した学級・学年経営の成果と考え、道徳通信の発行や家庭へ向けた情報発信を行うことにより、授業で発表した生徒の意見の他に、発表ができなかつた生徒の意見も掲載することで、④の他者理解についても、少しずつ深めることができ、生徒は家族と道徳的価値について話し合う機会も持ったから、生徒・保護者より大変高い評価になったと考える。
- 毎回の授業において、道徳的価値について自分自身の生活や考え方を振り返る時間を設け、教員が生徒の記述に対してコメントをし、やり取りを重ねたことにより、道徳的価値について、自分自身の生活や考え方と照らし合わせながら、真剣に考えることができたと考える。

< 今後の取組 >

- ・ 「考え方、議論する」道徳科の授業を充実させるためには、道徳科の時間に限らず、全教育活動で、対話的な活動を積み重ねる必要がある。
- ・ 発言したり、記述したりするなど自分の考え方を表現するのが苦手な生徒もいる。道徳科に限らず、夢や目標を語り合う場を意図的に設定し、自己肯定感を高める。
- ・ 引き続き、道徳主任と各学年の道徳担当者が中心となって、同僚性を生かし、相互の授業力向上につなげる。

学校関係者評価委員会

- 道徳科の時間の指導は、大変重要である反面、指導の難しさがある。教員の経験年数等によって指導力に差が出やすい中、学年部が、チームとして機能し、道徳科の時間に努めたため、良好な結果が出たと考えられる。今後、道徳科の時間で養われた道徳的実践力が、様々な場面で発揮されることを期待したい。

< 考察 >

- △ ②・③は、良好な評価結果である。これは、学年主任による学年通信や、学級担任による学級通信や道徳通信で生徒の様子や考え方適切に発信され、学校ホームページを更新していることから、信頼や安心につながっていると考える。
- ▲ ①、④は、他の項目に比べると低い。少しずつ活動に地域や小中連携を行ったが、例年に比べると地域や小学校との連携に関わる活動が少なかったからだと考える。

< 今後の取組 >

- ・ 今後も、学年や学級通信並びに学校通信、そして、学校ホームページや情報発信に充実させていく。
- ・ 地域（公民館活動）等が、学校に求めるニーズが、更に多様化している。来年度から学校運営協議会（コミュニティスクール）編制されるが、生徒のために、適切な対応ができるよう取り組んでいく。

学校関係者評価委員会

- ホームページが昨年度と比べると、かなり充実している。コメントも示唆に富んでおり、教育活動の様子がよく分かる。
- ▲ ホームページの生徒の写真掲載については、今後も引き続き、個人情報の観点から、保護者からの許可の下、取扱について留意してほしい。
- ▲ 来年度から学校運営協議会が組織されるが、見通しをもって進めてほしい。

【別表】外部人材の活用による業務改善について

子どもと向き合う時間、教材研究の時間			業務の負担			配置効果		
増加した	少し増加した	変わらない	軽減された	少し軽減された	変わらない	効果がある	少し効果がある	効果がない
46%	24%	29%	54%	24%	22%	71%	20%	9%

回答対象:教職員